

一六七〇番

朝あさ開びらき 漕こぎ出でて我われは 湯ゆ羅らの崎さき 釣つりする海あま人を  
見みて帰かへり来こむ

一六七一番

湯ゆ羅らの崎さき 潮しほ干ひにけらし 白しら神かみの 磯いその浦うら廻みを  
あへて漕こぐなり

一六七二番

黒くろ牛うし瀉しがた 潮しほ干ひの浦うらを 紅くれの 玉たま裳も裾すそ引びき 行ゆく  
は誰たが妻つま